



第44期 事業レポート

平成24年4月1日 ▶ 平成25年3月31日

新日本空調株式会社



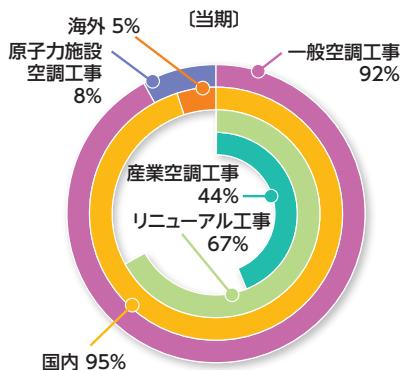
代表取締役社長 高橋 孝

「SNK品質」の発揮で 「増の四冠」を二期連続達成

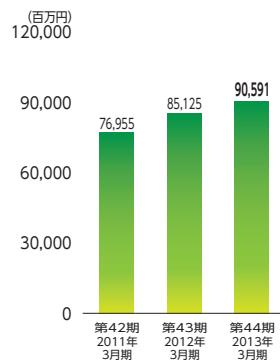
Q まず当期の業績についてお聞かせください。

中期経営計画二年目となる当社グループの当期の業績は、受注工事高905億9千1百万円(前期比6.4%増)、完成工事高855億5千3百万円(前期比7.4%増)、営業利益22億3千万円(前期比16.4%増)、経常利益24億5千7百万円(前期比16.5%増)、当期純利益13億2千2百万円(前期比63.0%増)、繰越工事高487億2千4百万円(前期比11.5%増)となりました。受注工事高は最終年度の目標値を前倒しで達成し、完成工事高、利益につきましても公表値を上回る業績を残すことができました。

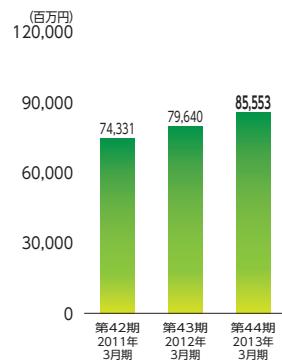
完成工事高内訳



受注工事高



完成工事高



特に、社内目標としておりました受注工事高、完成工事高、繰越工事高、利益の四つの項目でいずれも前期実績を越えるという「増の四冠」を二期連続で達成できた意義は大きく、「持続的成長発展」を確実にするためには不可欠のものと考えております。



中期経営計画、二年目の進捗状況について教えてください。

中期経営計画として、「社会貢献と企業価値の向上」の理念を継承しつつ、「顧客ニーズに応える全社一丸体制の推進」、「中核独自分野での事業推進力の向上と新成長分野への積極投資」ならびに「経営資源の最適活用とコーポレートガバナンスの追求」の三つを、初年度に引き続き基本課題としました。

それを支えた取り組みとして「質と量のバランスを見極めた戦略的受注」、「随処作主の一丸体制による利益創出活動」、「海外分野での事業深耕」が功を奏し、施策が着実に成果を出してきていることの現れと考えております。

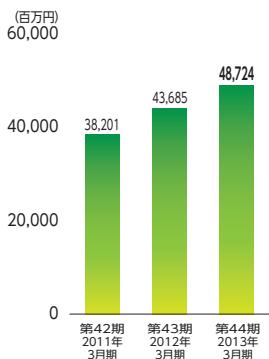


受注工事高が最終年度の目標値を前倒しで達成されましたが、具体的な方策をお聞かせください。

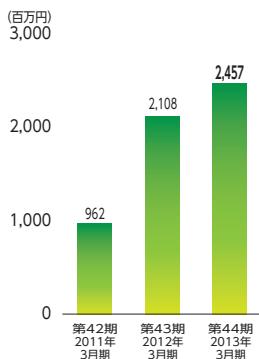
社会環境を反映した熾烈な受注競争の中で、質と量のバランスを図りつつ、将来に向け戦略的に受注する必要があります。

そのために、営業推進の対象を、「食品」、「医療・医薬」、「データセンター」と定め、当社の得意分野である「電子デバイス」とともに、単に目先のボリュームや利益額のみには偏らない「質と量のバランス」の意識を、現場と経営で十分に共有した上で

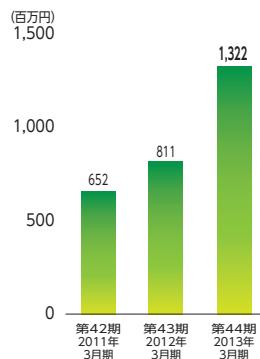
繰越工事高



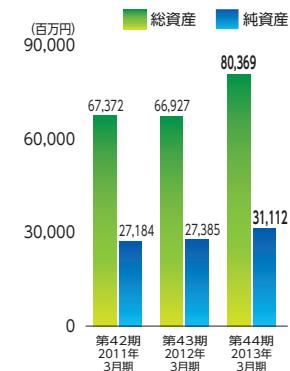
経常利益



当期純利益



総資産・純資産



受注活動を行ってまいりました。

その結果、「食品分野」で前期比3.7倍の増加、「医療・医薬分野」で前期比31.5%の増加、「データセンター分野」で前期比14.4%の増加となりました。

また、ワンストップソリューションの体制強化、海外分野での事業深耕を図ったことも、受注工事高が一年前倒しで達成できた要因です。



利益もかなり伸びていますが、秘策はあったのですか？

秘策があるわけではありません。私がかねてより、随処作主の精神と組織活動とを融合させるためのポイントを「会社力要諦十項」として取りまとめ、その浸透を図ってまいりました。これは一言で申せば、人的資源を含めての企業の足



トモエ乳業(株)第二工場(当社は空調・衛生設備を担当)

腰の強さとも言うべきもので、昨今の当社の状況を見ますとこの精神の定着が図られつつあるものと感じております。

その結果、営業、技術、購買の三位一体活動や、重要な事業パートナーである協力会社を含めた「チームSNK」による改善提案、徹底した原価低減活動等が広く社内全体で共有され、筋肉質な体制づくりの進展と相俟って現在の厳しい経済状況下における利益面で大きな貢献がなされたものです。



海外展開への状況と今後の見通しについてはいかがですか？

受注工事高・完成工事高ともに順調に伸びており、海外の三現地法人全てが営業黒字となり、計画どおり事業深耕が進んでおります。

シンガポール現地法人は、海外では当社として初となるデータセンターを受注し、今後のさらなる展開に期待しているところです。

上海現地法人は、領土問題を発端とする反日運動があり、計画が中断・中止を余儀なくされた案件もありましたが、最終的には前期より受注・完工・利益とも伸ばしております。

また、スリランカ現地法人は、スリランカ国内の治安が安定したこともあり、ホテルなどの受

注を伸ばし営業利益は黒字に転換しました。

そして、2013年度より「海外事業統括本部」を新設し、上海、スリランカ、シンガポールの各現地法人を統括するとともに、当社グループの海外事業遂行能力を一層強化するため、海外適性を備えた人材の育成や国内外での人材ローテーションを積極的に行う等により、「SNK品質の確保」等内外でのバランスのとれた事業対応力の向上に努めています。

さらに、アジア地域での一層のサービス充実を図るため、現在の三現地法人体制に加えて新拠点の開設による海外ネットワークの拡充を行います。具体的には、ミャンマーに2013年度に再進出する予定であり、他にも複数の国で調査・準備を進めております。

Q

遅れていた東日本大震災の復興が本格的に動き出しそうですが、対応はどのようにされていますか？

東日本大震災から二年が経過し復興が本格化していくタイミングをとらえて、その復興事業に積極的に取り組んでいくことは、当社にとっての事業推進ということ以上に会社としての社会的使命であるとの認識を持っております。

震災の経験を踏まえて、より安全な設備・施設の構築に関わることに全社を上げて取り組むべく、社長特命事項として担当専務を任命し対



応してまいります。

Q

原子力事業について今後の対策をお聞かせください。

当社の長年の経験や技術力の蓄積を安全面の一層の強化に活用していく方向を目指したいと考えます。

原子炉施設にかかる新規規制基準が7月に施行されることに伴い、既存設備に対しては大幅な対策強化が求められますが、その対策について積極的な提案を行っていくとともに、廃炉措置に向けた技術開発を強化します。

また長年、原子力空調分野で培ってきた高度な安全技術を一般施設の工事へ応用することについても具体的な検討を進めております。

2013年度経営計画

「新日空 中期経営計画」(2011～2013年度)

◆基本方針

社会貢献と企業価値の向上

当社経営理念に掲げる“空気を中核とする熱・水技術の研究と開発に努め、環境創造分野に新たな価値を創り出し、社会的に信頼される企業”の実現を目指します。

2013年度の経営計画達成に向け、継続して次の三つの課題に取り組みます。

◆定性計画

1. 顧客ニーズに応える全社一丸体制の推進

- ① 「SNK品質(超信頼品質)」の提供
- ② ワンストップソリューション戦略の強化
- ③ 東日本大震災復興への積極対応

**2. 中核独自分野での事業推進力の向上と
新成長分野への積極投資**

- ① 事業推進力のさらなる強化
- ② アジア拠点での事業深耕と事業遂行力の向上
- ③ 原子力分野における事業推進
- ④ ビジュアルソリューションの事業深耕
- ⑤ 技術の維持と高度化に向けた積極投資

**3. 経営資源の最適活用と
コーポレートガバナンスの追求**

- ① 人材の育成と活用
- ② コーポレートガバナンスの追求
- ③ 経営資源の最適活用

◆定量計画(連結)

受注工事高	920億円
完成工事高	900億円
当期純利益	14億円

Q スマートエネルギーへの取り組みについてはいかがですか？

当期、熱源最適制御システム「Energy Quest (エナジークエスト)」を当社で独自開発しました。必要とされる運転状況に対して、負荷を予測し、電気やガスという既存エネルギーに加えて、太陽光や地中熱などの自然エネルギーまでも含めた中から、最適な熱源の組み合わせを選択し、その稼働を自動的に制御するという本システムは、スマートエンジニアリングを支える最先端の中核技術として幅広い分野での活用が期待されます。2013年度半ばには本格稼働を行い、順次展開していく予定です。

Q 人材の育成と活用についてどのようにお考えですか？

当社では、「人間力」を持つ人とは、「なくてはならない人」と定義付けております。つまり、専門性、人間性、どちらか一つでも必要な人ではありますが、二つが合わさって、初めて、「なくてはならない人」になる。そんな社員を増やしていくことが人材育成の重要なテーマであり、その総和が「なくてはならない会社」としての基軸を為すものと考えております。

個々の社員の「人間力向上」に努めるために、柔軟性と多様性を持った人事制度改革や幅広い人材登用制度等、働き甲斐のある職場作りを推進しております。

Q

中期経営計画も最終年度を迎えますが、次の中期経営計画についてどのような対応をされていますか？

2014年度から始まる新中期経営計画の原案の策定を行う、クロスファンクションチーム<Cross-function Team>を社内各部門より次世代を担う人材を選抜し発足させました。メンバーはいずれも各々のユニットでは既に指導的立場で中核を担っている人材ですが、さらに全社最適の視点を加味することにより、将来に向けた、全社員が共有できる方向性が打ち出せるものと思います。今後、チームの上申を受けて経営側でも熟考を重ね、計画を確定することとなります。

骨子としては、「随処作主の一丸体制」の具現化である「SNK品質」の絶え間ない向上です。「SNK品質」とは換言すれば「超信頼品質」であり、社員一人ひとりが随処作主の精神と組織活動の融合で最大のパフォーマンスを発揮し、「究極の信頼度」まで高めることです。

これは単に技術水準の高さのみならず、お客

さまのニーズを的確に捉えそれに迅速対応する営業品質、事業の推進を適切にコントロールしつつ透明性の高い会社を実現し、かつ現業をサポートする本社品質等の全社全部門を包含する概念です。「SNK品質」は様々な取り組みの根本となる基本精神、つまり人間に例えれば背骨ともいべきものです。この「SNK品質」を将来に向けてさらに拡充発展させたいと考えております。

Q

株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

最初に申し上げましたとおり、社内目標としておりました「増の四冠」を二期連続で達成しました。今後ともこの「増の四冠」を継続し、「持続的成長発展」を確実にしていくことが経営の重要課題と考え、株主の皆さまに安定的かつ継続的に成果の還元を行う所存です。

配当方針といたしましては、年間15円を基本としながらも、業績、計画の達成度に応じて、成果を特別配当の形で還元できるよう、業績を上げてまいります。

今後とも株主の皆さまの末永いご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	当期 (平成25年3月31日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)		当期 (平成25年3月31日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)
1 資産の部			2 負債の部		
流動資産	56,858	48,513	流動負債	46,979	37,988
固定資産	23,511	18,414	固定負債	2,277	1,553
有形固定資産	2,989	3,136	負債合計	49,256	39,542
無形固定資産	332	294	3 純資産の部		
投資その他の資産	20,188	14,982	株主資本	27,773	26,893
			資本金	5,158	5,158
			資本剰余金	6,887	6,887
			利益剰余金	15,750	14,869
			自己株式	△ 24	△ 23
			その他の包括利益累計額	3,339	492
			その他有価証券評価差額金	3,315	645
			為替換算調整勘定	24	△ 153
			純資産合計	31,112	27,385
資産合計	80,369	66,927	負債純資産合計	80,369	66,927

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	当期 (平成24年4月1日 ～平成25年3月31日)	前期 (平成23年4月1日 ～平成24年3月31日)
完成工事高	85,553	79,640
完成工事原価	77,497	72,234
完成工事総利益	8,056	7,406
販売費及び一般管理費	5,825	5,490
4 営業利益	2,230	1,915
営業外収益	256	286
営業外費用	29	93
経常利益	2,457	2,108
特別利益	8	60
特別損失	60	202
税金等調整前当期純利益	2,405	1,966
法人税、住民税及び事業税	551	1,128
法人税等調整額	531	26
少数株主損益調整前当期純利益	1,322	811
5 当期純利益	1,322	811

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	当期 (平成24年4月1日 ～平成25年3月31日)	前期 (平成23年4月1日 ～平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 799	6,489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,848	984
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,619	△ 6,316
現金及び現金同等物に係る換算差額	105	△ 20
現金及び現金同等物の増減額	76	1,138
現金及び現金同等物の期首残高	5,714	4,576
現金及び現金同等物の期末残高	5,790	5,714

連結株主資本等変動計算書(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
平成24年4月1日残高	5,158	6,887	14,869	△ 23	26,893	645	△ 153	492	27,385
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 441		△ 441				△ 441
当期純利益			1,322		1,322				1,322
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						2,669	177	2,847	2,847
連結会計年度中の変動額合計	-	-	880	△ 0	879	2,669	177	2,847	3,727
平成25年3月31日残高	5,158	6,887	15,750	△ 24	27,773	3,315	24	3,339	31,112

POINT

1 資産

資産は、前期末と比較すると13,441百万円増加し、80,369百万円となりました。これは「流動資産」の項目に含まれている「受取手形・完成工事未収入金」が7,712百万円増加したこと、「固定資産」の項目に含まれている「投資有価証券」が5,506百万円増加したことが主な要因です。

2 負債

負債は、前期末と比較すると9,714百万円増加し、49,256百万円となりました。これは「流動負債」の項目に含まれている「支払手形・工事未払金」が7,359百万円増加したこと、および「短期借入金」が3,484百万円増加したことが主な要因です。

3 純資産

純資産は、前期末と比較すると3,727百万円増加し、31,112百万円となりました。これは保有株式の含み益増加により「その他有価証券評価差額金」が2,669百万円増加したこと、「利益剰余金」が880百万円増加したことが主な要因です。

4 営業利益

当期は、熾烈な企業間競争が続いている中で、グループ全体での徹底した原価低減活動による利益創出と筋肉質な体制づくりに努めてまいりました。その結果、営業利益は2,230百万円(前期比16.4%増)となりました。

5 当期純利益

当期は、「営業外収益」として「受取配当金」を160百万円計上したこと、「為替差益」を27百万円計上したこと、「特別損失」として「投資有価証券評価損」を42百万円計上したこと、「法人税、住民税及び事業税」を551百万円計上したこと、および「法人税等調整額」を531百万円計上したこと等により、当期純利益は1,322百万円(前期比63.0%増)となりました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表

貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	当期 (平成25年3月31日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)		当期 (平成25年3月31日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	52,196	44,878	流動負債	44,982	36,359
固定資産	24,278	18,981	固定負債	2,096	1,377
有形固定資産	2,807	2,949	負債合計	47,078	37,736
無形固定資産	291	254	純資産の部		
投資その他の資産	21,179	15,778	株主資本	26,083	25,478
			資本金	5,158	5,158
			資本剰余金	6,887	6,887
			利益剰余金	14,061	13,455
			自己株式	△ 24	△ 23
			評価・換算差額等	3,312	645
			その他有価証券評価差額金	3,312	645
資産合計	76,475	63,860	純資産合計	29,396	26,124
			負債純資産合計	76,475	63,860

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	当期 (平成24年4月1日 ～平成25年3月31日)	前期 (平成23年4月1日 ～平成24年3月31日)
完成工事高	78,349	73,905
完成工事原価	71,398	67,370
完成工事総利益	6,950	6,535
販売費及び一般管理費	5,205	4,869
営業利益	1,745	1,665
営業外収益	306	297
営業外費用	27	78
経常利益	2,023	1,884
特別利益	8	60
特別損失	60	202
税引前当期純利益	1,972	1,742
法人税、住民税及び事業税	403	988
法人税等調整額	520	29
当期純利益	1,047	725

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

施工物件紹介

工期：2011年2月～2012年9月

QVCスクエア

QVCスクエア(地上7階・地下1階、延床面積37,488m²)は千葉市幕張新都心に位置した、テレビジョン放送およびインターネットによる通信販売でお馴染み、(株)QVCジャパンの本社・スタジオ・店舗としての機能を併せ持つ複合施設です。一般の本社ビルのイメージからは想像できないくらい、内外観ともにデザイン性が高く、周辺のオフィスビルとは異なる斬新な雰囲気を出しています。

当施設はスタジオがメインとなっているため騒音・振動に対し厳しい数値が設定され、撮影に影響のない環境を求められました。また、着工間もない時期に東日本大震災に見舞われ工期の遅延も危惧されましたが、予定どおりお客さまに引渡すことができました。



工期：2012年2月～2012年9月

フェザー安全剃刀(株)関工場

刃物の町として有名な岐阜県関市で創業したフェザー安全剃刀(株)は、創業80周年を機に生産能力を強化するため同地に新工場を建設しました。当工場は地上3階、延床面積12,017m²からなり、一般カミソリや理容・美容・工業用剃刀を製造しています。

当社は空調設備・衛生設備・消火設備・ユーティリティ設備を施工しました。空調熱源システムはターボ冷凍機+空冷チラー、衛生設備は給水を受水+加圧給水方式、排水を合流方式、消火設備は屋内・屋外消火栓設備となっています。また、拡散型吹出口や外気冷房システム、暖房用には生産炉熱を、空調コイルには生産用井戸水を利用するなど、省エネに配慮したシステムを多く採用しています。



工期：2011年2月～2013年1月

日本橋アステラス三井ビルディング

日本橋アステラス三井ビルディング(東京都中央区)は、江戸時代からの薬品問屋の町並みである江戸桜通りと昭和通りの結節点に位置しており、地上17階・地下2階、延床面積27,466m²のオフィス、店舗からなる複合ビルです。

当ビルは、建物の被害状況を推定する被災度判定システムの導入や72時間対応の非常用発電機の採用など、BCP対応に優れたビルとなっています。また、省エネ空調や照明のLED化など、二酸化炭素排出量を抑えた先進的環境ビルです。

当社は空調設備工事を担当しました。ペリメータレス空調やクールビズ対応空調機、深夜電力を利用した氷蓄熱槽を採用し、省エネ対策や環境配慮建物の実現に寄与しました。



トピックス

熱源最適制御システム「Energy Quest(エナジー クエスト)」を開発 －「Energy Quest」で熱源設備のエネルギー消費量を大幅削減－

当社は、社会的な課題である省エネ、省電力およびCO₂排出量削減に対応するスマートファシリティエンジニアリングツールとして、熱源最適制御システム「Energy Quest (エナジー クエスト)」(商標登録出願中)を開発しました。

「Energy Quest」は熱源機器の運用を自動的に最適化することにより、多様化する社会的要求を満たすことが可能なシステムです。今までの運用で生じていた無駄を見直し、熱源システムの能力を最大限に引き出すことで、省エネ改善率で最大30%以上を実現します。その他、省エネ以外にも節電やCO₂排出量の改善を意図した運転も可能であり、ニーズに応じた熱源機器の運用を提供します。

なお本システムは、2013年度中に本格稼働を行い、順次展開していく予定です。

「Energy Quest(エナジー クエスト)」の概要

■複数の運転モードを選択可能

熱電機器の最適運用を、省エネルギーだけでなく、ニーズに応じて省電力、省CO₂など複数のモードから選択することが可能です。

■熱源設備全体を最適化

変化する負荷状況と個別の機器特性を考慮し、熱源システムとして最も効率の良い運転順位・運転台数・負荷率を演算。ニーズに応じた最適な制御を行います。

■多様な熱源機種への対応

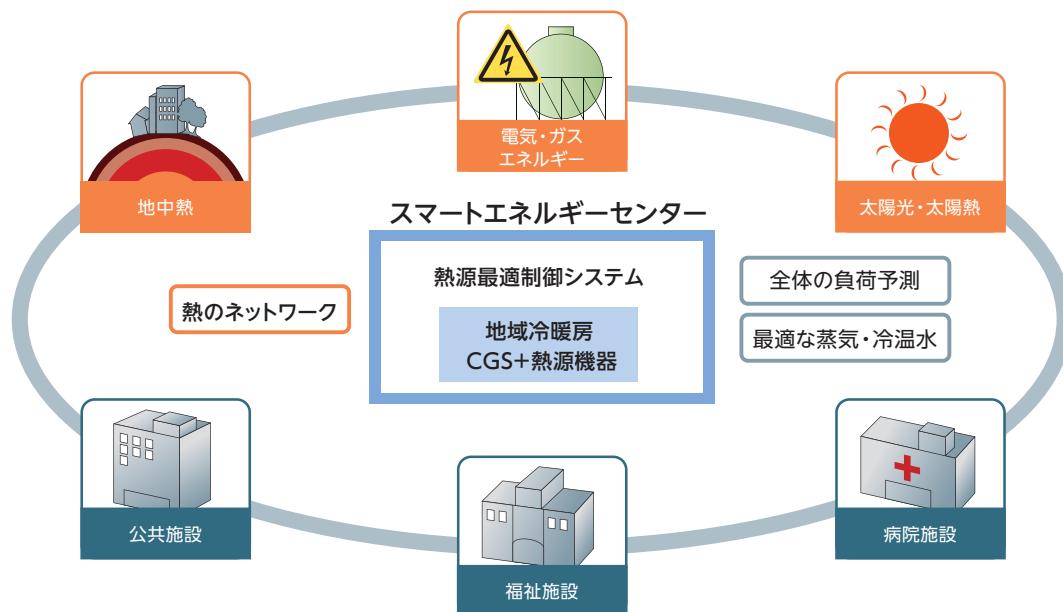
ターボ冷凍機、ガス吸収式冷凍機(排熱投入型も含む)や蓄熱槽など、多様な熱源機器設備を組合せたシステムにおいても、自動で最適に制御します。

■負荷予測制御と実負荷制御による最適運用

事前に熱負荷を予想し、これに基づいた運転をシミュレートするとともに、実負荷に合わせて予測制御を修正しながら最適運用を実現します。

■多様なポンプシステムへの対応

当社の特許技術である、熱源システムのモデリングによるポンプ可変速制御技術「P-Q master (ピーキューマスター)」(第50回空気調和・衛生工学会 学会賞 論文賞 受賞)を搭載することにより、1次ポンプ変流量方式も最適かつ安定的に制御を行います。



会社概要・株式関連情報

■ 当社の事業所／子会社 (平成25年4月1日現在)



13

■ 当社の概要 (平成25年3月31日現在)

商号	新日本空調株式会社 Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
設立年月日	昭和44年10月1日
資本金	51億5,860万円
建設業許可	国土交通大臣許可(特—21)第2716号 管工事業、機械器具設置工事業、 建築工事業、電気工事業 国土交通大臣許可(般—21)第2716号 消防施設工事業 一級建築士事務所 東京都知事登録第13767号
従業員数	860名

■ 役員・執行役員 (平成25年6月21日現在)

代表取締役社長	高橋 薫	常務執行役員	佐藤 明
取締役副社長	夏井 博史	常務執行役員	石井 直樹
専務取締役	山本 英幸	常務執行役員	片山 勝久
専務執行役員	山本 英幸	常務執行役員	早田 茂
専務取締役	塚原 光正	常務執行役員	田町 賢一
専務執行役員	塚原 光正	上席執行役員	赤松 敬一
常務取締役	宇佐美 威司	上席執行役員	金石 正博
常務執行役員	宇佐美 威司	上席執行役員	下元 智史
取締役	楠田 守雄	上席執行役員	竹崎 典夫
上席執行役員	楠田 守雄	上席執行役員	大宮 祥光
取締役	淵野 聡志	上席執行役員	三橋 渡
上席執行役員	淵野 聡志	執行役員	和木 英人
常勤監査役	佐藤 壽孝	執行役員	満山 健
常勤監査役	山田 勇夫	執行役員	進藤 伸二
監査役	一宮 正寿	執行役員	岡野 登
監査役	鶴野 隆一	執行役員	高橋 秀幸
		執行役員	伊藤 文隆
		執行役員	松浦 正志
		執行役員	本多 豊

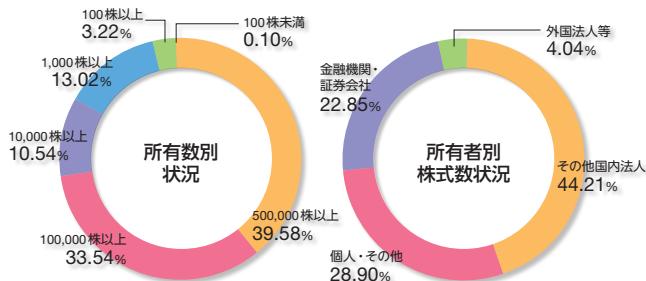
■ 株式の状況 (平成25年3月31日現在)

発行可能株式総数	84,252,100株
発行済株式の総数	25,282,225株
株主数	6,302名(前期末比228名減)

■ 大株主 (平成25年3月31日現在)

株主名	所有株式数	持株比率
新日本空調協和会	1,846千株	7.30%
三井物産株式会社	1,266千株	5.00%
株式会社三井住友銀行	1,256千株	4.97%
株式会社東芝	1,255千株	4.96%
新日本空調従業員持株会	1,145千株	4.53%
三井住友信託銀行株式会社	1,000千株	3.95%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	903千株	3.57%
日本電設工業株式会社	760千株	3.00%
株式会社東京エネシス	571千株	2.26%
日本ユニシス株式会社	483千株	1.91%

■ 株式分布状況 (平成25年3月31日現在)



個人・その他	5,898名	金融機関・証券会社	67名
その他国内法人	264名	外国法人等	73名

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月開催

基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号

(郵便物送付先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話お問合せ先) ☎ 0120-782-031

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
 1単元の株式数 100株

公告方法 電子公告の方法により、当社ホームページの下記アドレスに掲載して行います。

<http://www.snk.co.jp/>

ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

各種手続き

氏名・住所変更、単元未満株式の買取等、株式に関する各種お手続きは、ご利用の証券会社へお問合せください。なお、未払配当金のお支払いおよび特別口座に関するお問合せについては、三井住友信託銀行にて承っております。

未払配当金および特別口座に関するお問合せ先

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-782-031 (受付時間:平日 9:00~17:00)

URL:<http://www.smb.jp/personal/agency/index.html>

本当に大事なもののほど、目には見えないのかもしれない。



空気・信頼そして未来、見えないものを大切にします。

見えないけれど、毎日の暮らしにとって、かけがえのないもの。

空気も、そのひとつです。オフィス、ホテル、病院、商業施設など、暮らしに身近な場所にも。工場のクリーンルームや原子力施設など、社会を支える場所にも。それぞれの環境に最適な空気を、日々欠かすことはできません。新日本空調は、独自のエンジニアリングシステムで、より上質な空気をまだ見ぬ未来へと送りつづけます。

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル Tel:03-3639-2700(大代表) Fax:03-3639-2732 <http://www.snk.co.jp>



人と空気と環境と

新日本空調

当社はホームページを重要な情報発信源のひとつとして認識しており、決算情報や技術情報などを適宜掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページ・アドレス(IR情報)

<http://www.snk.co.jp/ir>

